

市政トピックス

3年ぶりの皆既月食に感嘆! —天文台で観察会を開催

5月26日、天文台で皆既月食の観察会が開催されました。「皆既月食」とは、太陽・地球・月が一直線に並び、月全体が地球の影に入り暗く見える現象のこと。市内で見られたのは約3年ぶりです。特に今回は1年のうちで月が地球に最も近づいて大きく見える満月「スーパームーン」と重なり、約24年ぶりの「スーパームーン」での皆既月食となりました。



◀月は、欠けた部分が全く見えなくなるわけではなく、少し赤みがかかった色で暗く見えました



▶当日は、時折雲に隠れながらも、はっきりと月食を観察することができました

市政トピックス

「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」を開催しました

市では、エリアごとに多様な主体と協働しながら、まちの魅力向上につながる取り組みを進めています。青葉通駅前エリアにおいては、民間事業者による開発の機運が高まるともに、青葉通周辺の商店会等地元関係者からなる青葉通まちづくり協議会が、平成30年に青葉通の一部広場化の提案が含まれた「青葉通まちづくりビジョン」を提言。これらを契機として、居心地が良く歩きたくなる空間の創出を目指し、5月に官民連携による「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」を発足しました。学識経験者や商工関係者、沿道地権者、交通事業者など約30人で構成し、青葉通駅前エリアの公共空間の在り方を検討していきます。

6月1日に、第1回協議会を開催。高橋副市長は「このエリアを、多くの人を引き付ける空間として将来に引き継げるよう、活発な議論をしていただきたい」とあいさつしました。その後、交通処理や利活用についてワーキンググループで検討することなど、進め方を確認しました。今後は、令和4年度中の整備方針策定に向けた社

市政トピックス

市政トピックス

「地域版女性リーダー育成プログラム」が始動

市とせんだい男女共同参画財団では、女性がまちづくりの担い手としてリーダーシップを発揮していくための研修「地域版女性リーダー育成プログラム 決める・動く」を実施しています。平成28年に始まったこの研修では、地域で活動する女性が課題解決や組織の目標達成に必要な力を磨きます。



▲研修では、実践的なトレーニングと受講者同士の学び合いにより、考えを深めています

市政トピックス

ニホンイヌワシの自然繁殖に成功

3月16日、八木山動物公園フジサキの杜で、ニホンイヌワシのひなが誕生しました。ニホンイヌワシは環境省で絶滅危惧種に指定されており、動物公園では平成15年から繁殖に向けた取り組みを推進。卵の状態が成長が止まったり親が卵を食べたりと、なかなかふ化に至りませんでした。今回初めて自然繁殖に成功しました。

ひなは順調に生育し、5月30日に巣立った後、6月中旬には体長約80センチメートルと、親鳥と同じくらいの大きさにまで成長しています。親鳥の羽は茶色ですが、生まれた時は白いニホンイヌワシ。所々まだ白い羽が残るかわいらしいひなの姿を見にきてください。



▲体つきはまだ幼いひな。くちばしも、成長とともに白色から黄色になっていきます

市政トピックス

災害の経験に学ぶ—仙台市職員間伝承ガイドブックを作成

東日本大震災から10年が過ぎ、市役所では震災後に入庁した職員

本年度の研修は12月までの全11回で、町内会や地域団体、NPOなどで活動する女性24人が参加。第1回を6月3日にエル・パーク仙台で開催しました。研修への参加を通してなりたい自分を考えるワークシヨップでは、「自信を持って発言ができるようになりたい」「この研修でネットワークをつくり、次につながられる役割ができれば」と抱負を語っていました。今後、自分の強みの生かし方を学ぶ講義やスピーチトレーニングなどを経て自分らしいリーダー像を描き、地域の課題解決等に生かせる力を身に付けていきます。

が全体の4割を超えています。職員の災害対応力を向上させ、災害に強いまちづくりを進めるため、市では「仙台市職員間伝承ガイドブック 災害の経験に学ぶ—Form 3・11ガイド」を作成しました。ガイドブックは、震災の経験や教訓を職員間で伝承する際の考え方や、個人・グループで取り組むための教材をまとめたものです。教材は、宮城教育大学防災教育研修機構や東北大学災害科学国際研究所と共同で、eラーニングと対話型ワークシートの2種類を作りました。eラーニングは、教訓や対策を学ぶほか、対策を決めるまでのプロセスを掲載するなど段階的に学びを深められるようになつており、市民団体や民間企業の方々も活用いただけます。対話型ワークシートは、職員の証言記録を読み、自治体職員として災害時における臨機応変な対応力を身に付けるためのものです。

市の職員一人一人が「災害に強いまち仙台」を支える意識とスキルを身に付け、防災力向上に努めていきます。

●ガイドブックはホームページ <https://sendai-resilience.jp/efforts/government/human-e-learning.html>に掲載していますので、ご活用ください

3.11 震災文庫を 読む



宇田川敬介 / 著 飛鳥新社 刊

「震災後の不思議な話 三陸の〈怪談〉」

東日本大震災後、亡くなった人々をめぐる不思議な話が数多く生まれました。それらを集めたのが「震災後の不思議な話 三陸の〈怪談〉」です。津波の翌日、高台の神社に現れた母子の霊、自分は生きているのかとタクシーの運転手に尋ねてくる霊、仮設住宅で亡くなった老人の霊などの話が語られます。

しかしこれらは、単なる幽霊譚ではない、と著者の宇田川敬介氏は説いています。私たちにとって、必要な話でもあるのだと。

「津波の霊たち 3・11死と生の物語」は、石巻市の大川小学校について取材したルポルタージュですが、この本でも不思議



チャード・ロイ / 著 リド・濱野大書房 早川書房 刊

「津波の霊たち 3・11 死と生の物語」

被災地で無礼な行いをしたために、津波で亡くなった人の霊に憑依された男性の話や、行方不明の子どもの気持ち、霊能者を通じて知る話です。

我が子の遗体捜索にのめり込む母親に、その子の霊は「お母さん、私のことはいいから仕事に復帰して」と言いました。母親は、それをきっかけに自分の将来を前向きに考えられるようになったそうです。

震災当時「ザ・タイムズ」紙の東京支局長として在日していた著者のパリー氏は、このように亡くなった人をめぐる不思議な話について「東北地方の豊かな文化の一部として称えるべきもの」と述べています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585